LETTER FOR YOU 知事からのお手紙

県民のみなさんへ

熊本県知事　細川護熙

寒い日が続いておりますが、皆様にはご清栄にお過しのこととお喜び申し上げます。

すでにニュース等でご存じかと思いますが、札幌の雪まつりのメーン会場中央に、各方面からのご協力により本県出身の自衛隊員の手で「熊本城」の雪像がつくられることになり、話題を呼んでおります。

私も数年前から、札幌の雪まつりで冬が終わり、熊本の植木市と阿蘇の野焼きで日本の春が始まるのだと全国にキャンペーンをはりました。阿蘇の火まつりも今年で三回目を迎え、定着して参ったと思いますので、今年は更に一歩踏み込んで、日本の春を告げる一大行事にしてゆきたいと思っております。

ところで、昨年暮れ発表された第四次全国総合開発計画の中間報告を見ますと、今以上に益々東京集中の傾向を強めていこうという風潮が見られます。そういう傾向にストップをかけるためにも、私はあらゆる機会をとらえて訴えていきたいと思っております。

地方が活性化しなければ、全国の活性化はありません。そのためにも昨年末の「県土デザイン編」によって補完され、具体化された「熊本・明日へのシナリオ」を、これまでの成果を踏まえ、着実に実行してゆくことが大事なことだと存じております。

また県民の皆様の県政へのご理解とご協力をいただくためには、分りやすい県政、開かれた県政であることが重要であると申し上げて参りましたが、先般作成しました「一〇〇のターゲット」もそういう意味をこめまして、シナリオに掲げたそれぞれの施策や方針の進行状況をお知らせしたものでございます。

今後ともこのような方法によりまして、県民の皆様にできるだけわかりやすい行政となるよう努めて参りたいと存じております。

私もお蔭様で先の県知事選挙で県民の皆様のご支持をいただき、引き続き県政を担当させていただくことになりました。一層の県政推進、県勢浮揚のためには、県民総参加という、ことが何よりも大切であることは言うまでもございません。今後とも皆様方の積極的なご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

県政トピックス

二十一世紀に向けての交流拠点に。
県北地域に「アジアランド」構想

荒尾市を中心とする県北地域にアジアにおける人材、技術、物流、レジャー、文化の拠点基地「アジアランド」が建設されることとなった。

この構想は、わが国最大手の総合商社三井物産を中核とする三井グループが進めているもので、シルクロードの壁画などを実物大で復元する異文化交流のレジャー施設、アジアとの技術交流の大型研修センター、大豆など輸入一次産品の物流基地などの機能をもつ複合施設の建設が核となる。

完成まで十年、総投資額は一千八百億円が見込まれている。民間活力を中心とした、九州では最大規模のこの地域開発プロジェクトは、石炭産業衰退の影響に苦しむ荒尾地域の振興はもとより、九州全体の経済界への強い影響を与えるものとして注目を集めている。

景観保護に条例を―。
景観検討委員会提言

県景観検討委員会は、十二月二十七日、熊本の景観の現状、景観対策のあり方、景観施策の推進と条例化の必要性を柱とした提言をまとめ細川知事に提出した。

提言では、県土の優れた景観を保全あるいは創造するために地域指定を行ったり、幹線道路沿いで景観を損ねる恐れのある施設等に対して届け出義務を課するなど特色のある内容となっている。

県では、これを受けて今年二月の県議会に条例案を提案する。制定されれば都道府県レベルでは滋賀県、兵庫県に次いで三番目となる。

明日を担う若者たちを応援！
農業後継者育成基金発足

明日の熊本農業を担う後継者づくりのため、県農業後継者育成基金（理事長、細川知事）が、十二月四日発足した。

県、市町村、農業団体などが、六十三年度までに五億円の基金を積み立て、その利子運用で、後継者育成事業を実施する。

主な事業は、青年農業者クラブの組織づくりや国内、海外研修の助成などで、本年度中に推進協議会をつくり、具体的な計画づくりに取り組む。

知的生産の場づくり着々と。
阿蘇ソフトの村に八社の企業進出

豊かで閑静な自然環境の中に、ソフトウェア企業や音楽家、建築家などを誘致し、知的生産の場づくりを目指している「阿蘇ソフトの村」。ここに立地する、ソフトウェア企業八社の進出調印式が、十一月二十七日に県庁で行われた。

新地場産業集積圏構想として、全国で九ヶ所指定を受けた地域の中で、ソフト企業が核となるのは全国でも初めて。

情報公開制度スタートを機に。
「熊本情報プラザ」県庁一階にオープン

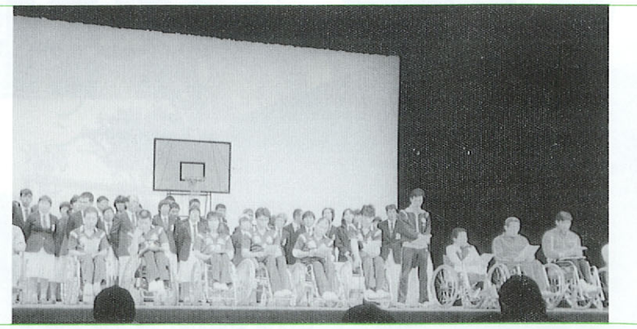
県が保有している情報を、県民の皆さんに提供するため、一月一日、情報公開制度がスタートした。

そのため県庁一階ロビーには、総合窓口となる「熊本情報プラザ」が一月五日にオープン。

公文書の閲示を始め、各種行政資料の閲覧、図書館の検索システムによる情報、地域活性化センターの情報、観光イベント情報など、情報バンクとして多様なサービスを提供する。

約千五百人が参加して。
「ふれあいフェスティバル'86熊本」開催

国際障害者年の中間年を記念して、「ふれあいフェスティバル'86熊本」が十二月七日、熊本市で開催された。

熊本市民会館に約千五百人が参加して行われた「ふれあい福祉大会」では、細川知事が「このフェスティバルを機会に障害者への理解を深めよう。」とあいさつ。

また下通りでは、障害者と健常者のふれあう場としてパレードや、車いすの体験試乗などが行われた。